



第39号
 令和5年6月20日
 発行
 熊本市北区高平
 2-20-35
 曹洞宗 浄国寺
 編集者
 中山 義昭



浄国寺施餓鬼法要(檀信徒盆供養)

ですが、全体の規模は縮小して行います。

浄国寺夏季施餓鬼法要 (檀信徒盆供養)

供養予定日

日時 令和四年七月三日 (月)

午前十一時

浄国寺檀信徒お盆先祖供養 了って法話。

法話 上天草市 地藏院住職 荒木 正昭 老師

昨年まで、住職単独で供養を務めました。熊本市内の曹洞宗寺院も若干規模を大きくして実施しますが、密に下火にはなつてもコロナは治まっておりません。密にならないよう人数の制限をします。約五十名程度までは、直接のお詣りをお受けします。

おことわり

患者 総数も減り、

感染症二類から五類に変更

されましたが、完全になく なった訳では ありません。特に高齢者は免疫力も落ち てきます。今年も、随喜

(お手伝い)の僧侶の数は、増えますが、参詣者の数の制限は 行います。

参加希望の方へ

参詣を希望される方は、電話にてお申し込み下さい。先着で約五十名まで受け付けます。申し訳ありませんが、電話先着順とさせていただきます。

通常マスクの着用等は本人の意思に任せるとさせていただきますが、出来れば着用の上での参加をお願いしたいと存じます。

先祖供養を見直そう

コロナ騒動が起きる数年前から、葬儀の形が変わってきました。多分、主たる理由は、景気の悪化と世帯収入の減少と言う事でしようが、所謂 家族葬が主流になつてきた事、コロナの蔓延がそれに拍車をかけた事は、昨年の通信にも書きました。同時に、葬儀や法事などの葬送儀礼が単に儀式化 又形骸化し、儀礼は簡素化しても良いのだという考えが広がりつつある事も記していたと思います。

我々僧侶は、お釈迦様の教えをみんなに伝えるのが務めです。宗教は、教祖の教えを広める事が大切な仕事です(金儲けではありません)



せん)。その教祖の教えも様々です。特に一神教(キリスト教等)の文化と仏教国の文化は大きく異なつて現在に至つてきた筈です。しかし、近年グローバルリズムの台頭と個人主義への移行により、日本人の民族性が大きく変わつてきたような気がします。日本人は、自己主張や意見をハッキリ言わないと言う非難めいた事を聞くこともあり。ある意味、これは仏教的な思考法とも関わりがあるような気がします。一神教では、神は絶対です。仏教では、「一切衆生悉有仏性」つまりみんなが本当は仏様なんだと説きます。更にお釈迦様の教えの基本は、良い行い(善因)は良い結果(善果)を生み、悪い行い(悪因)は悪い結果(悪果)を生む、これが因果応報で

す。そして、歪てが同じ形で良い悪いが繋がるのではなく、そこに、新たな関係性が介在します。これが縁（えんいえにし）です。それは新たな条件であったり、新たな別の原因であったりする訳ですが、他の人や他の条件との関係性を非常に重要視します。他人の目を気にしてばかりいると言う「世間様」「お天道さんが見てござる」等、他者との関係性を大切にしてきた筈です。しかし、個人主義の台頭（グロバライゼーション）によって他人を慮る配慮が減ってきたように思えます。これは、頭で考えて身につくものではなく、生活の習慣から感覚的に育まれます。一度、考えて見て下さい。我々は自分の意思と計画で、この世に生まれた訳ではありません。親の存在という因と他者のお陰という縁で、今現在生きています（果）を感じようになるのです。これが、先祖を大切にすることの第一歩だと思います。お盆やお彼岸、墓参などで、その因と縁を考え、お詣り等の行為として



実践する時、親や先祖への感謝の思いが身につくのではないのでしょうか？更に云えば、死者を思う気持ち、自分が生きていけるといふ実感に繋がるように想わす。それを忘れたり、蔑ろにすることが「今だけ、金だけ、自分だけ」と言う人間を育てているような気がします。儀式をチャントしていないと、自分に先祖が罰を当てるかも知れない、それが嫌だから儀式や儀礼だけは、一応やっておこうと言う発想は何か違うような気がしませんか？自分が生きていくこと、それを作ってくれた先祖や縁のある他者に有り難うの気持ちを入れて手を合わせる事を忘れたら、この国は滅ぶようにさえ思える今日、この頃です。

**住職 曹洞宗熊本
泉第一宗務所 所長に就任しました。**

前回の通信にも書きましたが、今年一月より、曹洞宗熊本泉第一宗務所の所長に就任しました。江戸時代のキリシタン弾圧の為、幕府は天領として、天草地区に沢山の曹洞宗寺院を作ら

せました。現在も熊本県内に曹洞宗寺院は百二十ヶ寺ありますが、その内の半分は六十ヶ寺は天草です。宗門では、寺の統括地区を天草を第二宗務所として、天草以外の県下全域を第一宗務所としています。

「JAZZ」

事、それも仏教哲学だけではなく、習慣やしきたりとしてそれをやる意味を伝えていきたいと今しみじみ感じています。

私は、その第一宗務所の代表者（所長）になった訳です。浄国寺住職、高平幼稚園の理事長・園長、この二足の草鞋で体力の眼界を感じていました（私も六十代半ばです）。曹洞宗は本山である福井の永平寺と横浜鶴見の総持寺とは別に、東京浜松町に宗務庁という事務統括機関があります。ここは、一般の役場（公務員の方すみません）以上に役所の悪い所が固まっているようで、所長というこの三足目の草鞋の仕事で、五月には心身疲弊から体調を少々崩しました。法事等のキャンセルや代行を他の方丈様にお願ひしたりして、檀家の方には迷惑をおかけした事、ここに深謝します。辛い仕事の要領も少しは掴め、体調も回復しておりますので、どうかご心配なく。もう一度、原点に戻り、お釈迦様の教えを、より広めていける僧侶としてやるべき

この企画も十年を越えました。中でも「お寺でジャズ」は十五年以上続いています。元々私の趣味のジャズベース演奏から始めました。私の憧れの世界的ベassist鈴木良雄さんと仲良くなり「君のお寺で演奏会をしよう」と言って頂いたのが始まりです。毎年、一流のジャズマンを連れて演奏して貰っています。チンさん（鈴木良雄氏の通称）も、今年には喜寿を迎えましたが、現在も元気でツアーされています。同い年のサクセス峰厚介氏と四々五十代の円熟のプレイヤーと組んで今年も当山で演奏してくれました。演奏前には、法話もありません。年々参加者も増えてきます。お待ちしています（千月 千人見志）



定例木曜坐禅会
毎週木曜日 午後八時より 当山本堂にて
坐禅をして、坐禅に関する書物の解説（約二十分） 会費・会則一切なし、
初めての方はご連絡下さい

「異次元の少子化対策」などと銘打って、政策を発表しようですが、財源も曖昧、単に金を今までより出すだけの受けを狙っただけの発想に見えます。少子化防止は日本の繁栄ではない筈です。生まれ、育つ子の将来も考えずに「金をやるから助かるだろう、さあ、子どもを作れ」と言われても、日本の未来を考えると、単純に子どもは産めませんし、育てるのも大変です。第一、全く教育の事、つまり育つ子の事は全く考えていない訳です。子育てには当然、金はかかりません。それ以上に努力、労力もかかる訳です。子どもは環境で育ちます。少なくとも乳幼児期の子どもには親の愛情と労力が欠かせません。しかし、政策では全く教育や親の努力には触れていません。幼稚園長として三十年、今では、文科省管轄の幼稚園は大都市のセレブ幼稚園だけになり、その他の幼稚園は認定こども園という名の託児所に変わらざるを得ず、保護者の代行業者になり、親は子から離れ金を稼がざるを得なくなっています。そこに少々金を出しても焼け石に水に過ぎません。日本は教育にかける経費は今でも世界でも低いレベルです。世帯給付は、世界で上位という言葉に騙されてはいけません。